

産地生産基盤パワーアップ事業  
都道府県評価結果

都道府県名 奈良県

○ 産地パワーアップ計画  
(2) 販売額又は所得額の10%以上の増加

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標	現状												目標												実績												地域(県又は国を含む)の価格(販売単価)			補正係数	価格補正後の実績	事後評価の検証方法(※定量的な検証ができること。)	達成率(%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考
						年度		面積		生産量又は出荷量		価格(販売単価)		生産コスト		年度		面積		生産量又は出荷量		価格(販売単価)		生産コスト		年度		面積		生産量又は出荷量		価格(販売単価)		生産コスト		事業実施前年度	目標年度														
						単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位													
奈良県農業再生協議会	1	奈良県宇陀市橋原・大宇陀・菟田野地区	施設野菜(大和まな、大和きく、干筋みずな、こまつな、ほうれんそう)	施設野菜産地の形成の推進 ①土地利用型作物から施設園芸作物への作付転換の取組 ②効率的な施設野菜経営への転換	販売額の10%以上の増加 ※県にて地域の高収益化につながる品目と判断し、総販売額の増加。	27	13,459	万円	7.6	ha	264	t	510	円/kg	3	16,528	万円	8.7	ha	320	t	510	円/kg	R1	10,539	万円	8.8	ha	168	t	629	円/kg	438	円	398	円	1,099	11,582	万円	-61.1	目標面積は達成出来たが、大雨や害虫の被害等により、販売額は未達成となった。	中心的经营体の販売額(大和まな、大和きく、干筋みずな、こまつな、ほうれんそう)を調査する。調査はJAならけん並びに山口農園グループ等を通じて販売した出荷伝票等により行う。 ・評価は、目標と同様の手法により、同じ農業者等で調査する。	成果目標が達成出来ていないことを確認した。 大雨や害虫の被害等による影響が大きいという点で、排水性の向上や害虫の防除体系について指導していく。	価格補正には、奈良県中央卸売市場の奈良県の単価を用いた。 なお、大和まなについては、JAならけんの出荷実績のデータを用いた。							
奈良市地域農業再生協議会	3	奈良県山添村・月ヶ瀬・香野	茶(てん茶)	従来の煎茶生産では単価ひいては収益の向上が望めない。一番茶中後期、二番茶、秋番茶について、てん茶生産に切り替え、収益向上を目指す。	10aあたり販売額の10%以上の増加	28	385,770	円/10a	6	ha	23,905	kg	968	円/kg	#	904,156	円/10a	6	ha	28,793	kg	1,884	円/kg	R1	743,777	円/10a	5.4	ha	25,063	kg	1,302	円	一番茶 2,741円 二番茶 2,099円 秋茶 606円	一番茶 2,037円 二番茶 1,496円 秋茶 606円	一番茶 1,345 二番茶 1,429 秋茶 1.0	968,553	円/10a	112.4	販売単価について、R1年度は他県での生産量増加の影響により単価安となったため、実績ベースでは目標値に達しなかったが、補正係数を用いて金額を算出したところ、目標を達成していることを確認した。	R1年度、大規模な霜害と他県での生産量増加の影響により単価安となったため、実績ベースでは目標値に達しなかったが、補正係数を用いて金額を算出したところ、目標を達成していることを確認した。	各販売単価についてはJA茶業課発出の「茶の販売記録」資料より抜粋										
山添村地域農業再生協議会	1	奈良県山添村・奈良市月ヶ瀬	茶(てん茶)	既存てん茶加工施設の処理能力を超えた農地集積が進み、煎茶工場への青芽売やてん茶加工の委託を余儀なくされている。てん茶製茶ラインの増設により、全ての生葉を自社でのてん茶加工・販売に切り替え、省力高能率管理機械も導入することにより10a当たり収益の向上を図る。	10aあたり販売額又は所得額の10%以上の増加	28	692	千円/10a	14	ha	40,698	kg	2,000	円/kg	#	810	千円/10a	14	ha	57,531	kg	2,000	円/kg	R1	728	千円/10a	14	ha	122,605	kg	784	円	一番茶 2,741円 二番茶 2,099円 秋茶 606円	一番茶 2,037円 二番茶 1,496円 秋茶 606円	一番茶 1,345 二番茶 1,429 秋茶 1.0	915	千円/10a	189.0	昨年度は霜害による影響もあり、茶の単価が大きく落ち込んだ。 そのため、補正係数を用いて金額を算出したところ、目標を達成していることを確認した。	昨年度、大規模な霜害と他県での生産量増加の影響により単価安となったため、実績ベースでは目標値に達しなかったが、補正係数を用いて金額を算出したところ、目標を達成していることを確認した。	各販売単価についてはJA茶業課発出の「茶の販売記録」資料より抜粋										
山添村地域農業再生協議会	2	奈良県山添村及び奈良市月ヶ瀬・都祁地区	茶(煎茶)	兼用茶園管理機を導入して、適切な土壌管理を行うことで、収量増加による販売額向上を目指す。	10aあたり販売額又は所得額の10%以上の増加	28	435,019	円/10a	20	ha	124	t	691	円/kg	#	479,502	円/10a	20	ha	130	t	724	円/kg	R1	360,271	円/10a	20	ha	109	t	677	円	一番茶 2,741円 二番茶 307円 二番茶 2,099円 秋茶 606円	一番茶 2,037円 二番茶 403円 二番茶 1,496円 秋茶 606円	一番茶 1,345 二番茶 0.762 二番茶 1,429 秋茶 1.0	422,547	円/10a	-28.0	昨年度は霜害が発生したため、茶の単価が大きく落ち込んだ。 しかし、茶の単価を考慮しても、目標達成出来ていないことを確認した。 販売単価が地域単価より低く、目標の生産量にも達していないため、収量及び品質の向上に向けた取組を行うよう指導していく。	昨年度は霜害により茶の単価が大きく落ち込んだが、その影響を考慮しても、目標は達成出来ていない。 今後は、収量及び品質の向上に向けた取組を行うよう指導していく。	各販売単価についてはJA茶業課発出の「茶の販売記録」資料より抜粋										

(3) 契約栽培の割合の10%以上の増加かつ50%以上とすること

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標	現状					目標					実績					事後評価の検証方法(※定量的な検証ができること。)	達成率(%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考								
						年度	面積	総生産量又は総出荷量	契約取引量	契約割合	年度	面積	総生産量又は総出荷量	契約取引量	契約割合	年度	面積	総生産量又は総出荷量	契約取引量	契約割合													
						単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位						単位							
奈良市地域農業再生協議会	2	奈良県山添村・都祁	茶(煎茶)	〇2系列ある製茶ラインのうちの1系列について、葉打ち工程～精揉工程までを最新式の省エネ型製茶ラインを導入 〇かぶせ茶を増やす 〇コンテナ型茶園総合管理機を導入 これらにより、他産地、他工場に比較して高品質で低コストな茶の生産を推進することで、契約栽培の割合を全生産量の50%以上とする。	契約栽培の割合の10%以上の増加かつ50%以上とする	28	契約栽培の割合 0%	67	ha	390	t	0	t	31	66.8	ha	390	t	195	t	R1	66.3%	65	ha	415,232	kg	275,400	kg	荒茶生産量に対する契約販売量の割合について出荷伝票等で確認する。	132.6	目標達成できた	目標達成したことを確認した。	

都道府県平均達成率 60% 総合所見  
県平均達成率は60%で、目標達成出来ていない。昨年が評価対象年度であった地区は5地区あり、そのうち奈良市地域農業再生協議会の2地区、山添村地域農業再生協議会の1地区の計3地区で目標達成出来た。一方で、奈良県農業再生協議会の1地区、山添村地域農業再生協議会の1地区の計2地区で目標達成出来なかった。  
奈良県農業再生協議会の取組については、大雨や高温といった環境要因と害虫が原因であることが判明しているため、取組主体に対して適切な栽培管理を行うよう指導していく。  
山添村地域農業再生協議会の取組については、収量及び品質向上に向けた栽培管理を行うよう指導していく。